

毛綱

これは人毛と麻で作られた巨大な綱である。1864 年の火災で失われた東本願寺の再建のために、19 世紀後半に木材を運搬するために使用されたものの一つである。当時使用されていた麻縄は品質が悪く、堂や門に必要な巨大な梁や柱となる木材を引っ張る際に切れてしまい、大きな事故につながることがあった。この問題を解決するために、全国的女性信者が髪の毛を寄付し、より丈夫な縄を作ることができた。これは、聖なる目的のために犠牲を払うことを象徴する行為とされている。奉納された髪の毛で 53 本の綱が作られ、大きいものでは長さ 110 メートル、太さ 40 センチ、重さは約 1 トンにもなった。ここに展示されているのは、長さ 69 メートル、太さ 30 センチ、重さ 375 キロのものだ。